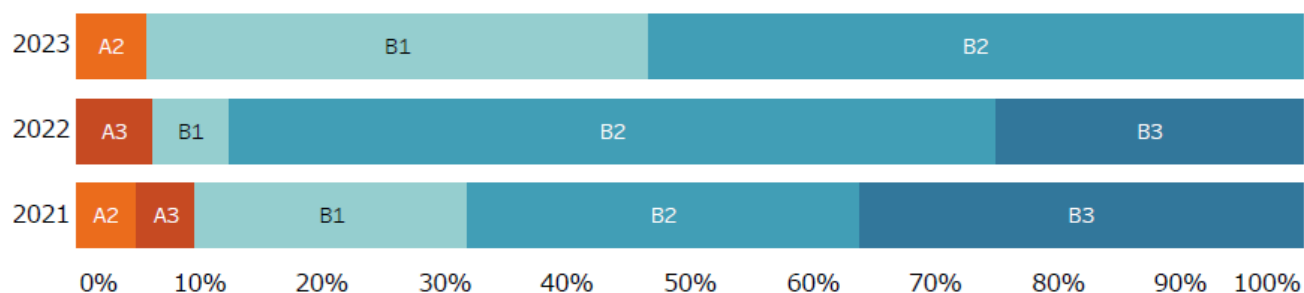


2023年 駒場東邦 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。大問4題構成は変わっていませんが、B3レベルの問題が見当たらず、全体的な難度が下がった印象を受けました。2022年、2021年に見られたハードな「調べる問題」が影を潜め、最上位生なら一度は触れたことのある問題が多く見られました。今年も作図の問題があり、正確な図を描く練習は欠かせません。



大問1は、例年通り一行題の構成でした。今年も、計算問題がありませんでした。(1)は、数に操作を加える問題でした。同じような問題が今年の栄光学園でも出題されていましたが、操作方法が異なります。類題に触れたことのある受験生がほとんどと思います。指示通りの操作をして数を調べていきます。128が2の7乗であることを知っていた受験生は128、さらにその半分の64に注目して、21に気づくことができたと思います。また、3が見つければ、調べた結果を利用して20も見つけやすかったと思います。(2)は、マス目を利用して三角形の面積を求める問題でした。平行に着目し、相似比を利用して解き進めます。ここは得点しておきたい問題です。(3)は、規則に従って数を調べる問題でした。①は、「2023」が出ていました。ここも得点しておきたい問題です。②は、数の和に着目して調べていきます。

大問2は、正方形のまわりに正方形、長方形を転がす問題でした。類題に取り組んだことのある受験生が多かったと思います。ていねいに作図をして、焦らず正確に計算処理をします。ここも確実に得点しておきたい問題です。大問3は、数に関する調べる問題でした。駒場東邦らしい数を調べる問題でしたが、類題に触れたことのある受験生も多いと思います。(2)は、平均の値と数の個数の関係に着目し、 $462 = 2 \times 3 \times 7 \times 11$ となることを利用して調べていきます。すべての場合を調べる必要があるため、差がついた問題だと思います。大問4は、駒場東邦で頻出の「立体の切断」でした。(1)は、確実に得点しておきたい問題です。(2)も、「平行」に注目して、切り口を正しくとらえていきます。

2022年は、かなりハードな問題構成で、算数では差がつきづらい状況でした。2023年は打って変わって、問題のハードルが下がった印象を受けました。ただ、頻出分野には変わりませんので、数に関する問題、調べる問題、立体の切断など、十分な対策は欠かせません。あくまでも予想ですが、大問1(3)②、大問2(2)面積、大問4(2)体積を落としたとしても、およそ7割程度には達することができると考えられます。